



三才圖會 全

3

3869
69





五
三
三
三
三
全

[Blank white label]

3869
69

利
3942

3869
69

大正七年三月廿一日
室井平藏氏贈

笠附集

能ハ月利

洗ハ髪ヲホス浴衣乃座

乞食乃登ル寺乃坂

竹田の影ヲ三度笠

塔ノ様ヲ舟ヲ家

歌の儘キ雪踏の音

そられて居ル屋敷

象母乃集るうしろ堂

反打ッて疾る外高餅

笠づく浪舟ヲ谷乃山

かき傳ふ成ル花屋の前

あまのこゝろや

終つぬあまの日乃御工人
福の御とんくぬ 冬
寒つばるる成り賣り下がる
百目の報ハ百目存る
歌乃らうその命少く友
己ガ樹歌ヲはるる雪
尚且乃先干空あはれ美
我氣入つて暮で尚テ
下戸乃あまご 三下ガリ
挿巻ハあまの流云の干話

いとく

鉢と芝居起キ別を
賣ル人乃氣をあり我
山尼の子のあまの声
たのこ世あまの心と日士
初ッ泣文干あまの紙
あり度イ門も通り札
名女乃あま有馬不二
英濃を川に集ル本札
我子よあまの心にあまの
杖つき乃、字礼まの

かささぎ

山上カウへ乃百乃ぞん

信ニラカあざしよまふれおはら

舟日戎乃百乃 浅

妹津丸がらんを思 打

継子かぬメ乃ちまらり

タキバ 若乃乃カシの何メ目

鳥の骸持ッてまふれ

喰らふぬうヤイをりクサレ

姉乃子乃子でわる去佛ドブツ

とんとりん海の新イ松

たりあ川め

町ウラの上ゲまはりッあを

小枝の多の一二三

聲ラギあはてやも什志人

そとハ賞しくいぶ語人

風川リあを 母の多

小判のたしにぬる反吉

仙臺のつらぬたぬ芝居

あまやで年をとらね銀子

縁ツあそけし 笠乃枝

神子の下々ス少紋様

引キ出ス

たんに極々存ル去用
子をひきくく出せ状
何レといふは愛上ノ子
尺世ノ人よもレせむ
やうそノもかりき小極ダシ尻
アレに絆ツケ山ム黒はひき
むレの法分ケ子中紙
去り荷ノのねでまをまを
女房ガ志ガまをまを
九レでレまをまを持チ

是ハさて

終シユ尾ビ乃レ冬ノ友
ソヤ男ノ乃レ分ハ水
やレ吹キ一ノ取リまを
阿ノ川ノ家ヲ亭ノに
掛クかをこを一ノ去イ又
若ク麦ノ屋ノ門ノ下ノ西ノ瓜ノ店
細ヲ人ヲをレ供メ又ノ糸ヲ
狸ノ入リ二ノ日ノ碎
内ヲ知ルとレ馬ノ屋ノ町
糸ノはレまをまを乃レ西ノ

うめうめと

ふんどしめくは

ニラカガシ

根附を何なり海に帯

根^{セツチ}附^{セツチ}る音^{セツチ}限^{セツチ}又^{セツチ}き^{セツチ}る^{セツチ}歌

母、おあことさよは合

悲^{セツチ}飲^{セツチ}ま^{セツチ}生^{セツチ}進^{セツチ}舟^{セツチ}り^{セツチ}者^{セツチ}飲

い^{セツチ}の^{セツチ}ち^{セツチ}ま^{セツチ}ど^{セツチ}る^{セツチ}と^{セツチ}り^{セツチ}と^{セツチ}厄

い^{セツチ}ろ^{セツチ}ま^{セツチ}る^{セツチ}と^{セツチ}あ^{セツチ}ま^{セツチ}こ^{セツチ}れ^{セツチ}せ

さ^{セツチ}せ^{セツチ}て^{セツチ}ま^{セツチ}や^{セツチ}り^{セツチ}の^{セツチ}呪^{セツチ}い^{セツチ}や

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

あ^{セツチ}つ^{セツチ}て^{セツチ}わ^{セツチ}る^{セツチ}呪^{セツチ}笑^{セツチ}か^{セツチ}女^{セツチ}屋

必^{セツチ}月^{セツチ}を^{セツチ}氣^{セツチ}の^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}強^{セツチ}い^{セツチ}

志んしと

芝居も棚へ上ぐるまで
たつたきつこはらりり
相^{ハシ}半^コ家^{ハシ}整^{ハシ}又^{ハシ}仕^{ハシ}女^{ハシ}房^{ハシ}
か^{ハシ}その踊^ル射^イ飾^バの家^{ハシ}杯^{ハシ}
欠^アび^クさ^ク出^クぬ^ク軍^ウ一^ウ物^ウ
菰^マ垣^グく^クま^クく^ク佛^フ乃^フ火^フ
灰^ト吹^トの音^トト^ト突^トッ^ト隣^ト
雀^ス乃^ス下^スり^スふ^ス子^ス乃^ス河^ス
墓^ム下^ムの火^ムも^ム焚^ムり^ム又^ムつ^ムて^ム雨^ム
え^エ越^エ乃^エ松^エを^エえ^エ越^エス^エ自^エ

今日日園白乃猪乃つお

ま^マごと^マ香^マ志^マ乃^マぬ^マと^マ年^マ作^マ
家^カ乃^カ曲^カを^カ籠^カて^カ志^カる^カ
左^サ乃^サの^サ櫓^サ乃^サ櫓^サ三^サ乃^サ
定^{テイ}木^{テイ}で^{テイ}画^{テイ}乃^{テイ}勝^{テイ}乃^{テイ}乃^{テイ}
ま^マん^マ中^マを^マこ^マぐ^マ武^マ士^マの^マ血^マ
あ^アら^アぬ^ア乃^ア乃^ア乃^ア乃^ア乃^ア乃^ア
四^シ百^シ余^シ乃^シ乃^シ乃^シ乃^シ乃^シ乃^シ
鉄^テ炮^テ乃^テ乃^テ乃^テ乃^テ乃^テ乃^テ
乃^ノ乃^ノ乃^ノ乃^ノ乃^ノ乃^ノ

ざんくんと

家^カ陸^{リク}塚^{ツカ}もむけ^ケ房^フり

豆^{マメ}ふ^フ欠^ケたく^ク田^タイ^イの

相^{アヒ}大^{ダイ}迹^ジチ^チて^テ足^{タラシ}室^{シム}吐^ツ

子^コ結^{ムス}の^ノ店^{タナ}へ^ヘ来^キる^ル子^コ供^ト

下^{シタ}駄^ダの^ノ使^ヒ成^ルか^カら^ラぞ^ゾあ^アき

余^ヨ亦^ソの^ノを^ヲあ^アら^ラじ^ジか^カら^ラお^オお^オ

さい^{サイ}ま^マの^ノよ^ヨ歩^フ下^{シタ}駄^ダの^ノ給^{ツク}

他^タ人^ニ尋^ミひ^ヒよ^ヨ出^デる^ルか^カや^ヤせ

穢^{ケガレ}人^ト町^{チヨウ}の^ノ者^{モノ}乃^シ一^{ヒト}辻^{ツジ}

ふ^フら^ラ乃^シ下^{シタ}女^メ天^{テン}会^{カイ}メ^メこ^コう^ウに

きんたりのと

氏^{ウヂ}子^コの^ノ遠^{トホ}し^シ町^{チヨウ}ざ^ザう^ウい

四^シ月^{ゲツ}八^{ハチ}日^{ニチ}は^ハ春^{ハル}湯^ユた^タく

あ^アや^ヤら^ラせ^セる^ルあ^アけ^ケ老^{ラウ}

角^{カク}ト^ト屋^ヤへ^ヘ出^デて^テく^クら^ラど^ド店^{テン}

か^カげ^ゲで^デも^モさ^サぬ^ヌと^トう^ウら^ラん^ン家^カ

ひ^ヒと^トの^ノよ^ヨ角^{カク}ト^トの^ノま^マル^ル部^ブ

あ^アら^ラじ^ジに^ニあ^アら^ラす^スる^ル 杖^{シヅメ}

つ^ツい^イづ^ズん^ンの^ノま^マは^ハけ^ケと^トけ

貞^{チカ}女^メ乃^シ知^チれ^レる^ルあ^アの^ノ紋^{モン}

新^{ニホ}店^{テン}へ^ヘ出^デる^ル信^シ出^デす^スれ

白イナ

どよやう騎ヨウよるつる馬
新客揃揃お一ト在在不
得得関取ハくせその
爪爪で身身女乃女乃乃足足由由は赤
銀銀多多をううししまま今今心心人
ををむむ芝芝居居のの本本出出のの場
仲仲一一居居りり法法ををううるるままののあ
アアししででもも款款没没うういい十十ア
新新乃乃ををののまましし大
戸戸極極くくううつつるる嫁嫁乃乃新

法法ををううるるままののあ

賞賞りりままししここややにに居スハハああ
女女子子ハハ消キエエてて海海ららひひ屋
ままごごおお人人ののままのの家家性性
法法をを彫彫たたむむここまま
人人消消つつ女女又又出出けけぬぬまま
羅ラ漢カン乃乃ややううかかららううんんああり
拙拙伎キりり残残れれるる木木のの樹樹
下下戸戸ハハここららいいででああるるまま
ああななののままいいそそくく法法ををううるるまま
家家後後合合乃乃わわりり人

あるりや

親の邊でちど盗む
をめて女房もたぬ年
利あるはまづ書子分
とけり遠しで知れ
噪の名で吾い入る
葬礼よまきふつく
あづのさねでまき
隣の嫁よ割りきこ
母親のり小核の礼
あざねちのぞ喰たむ

ア、うき

懐くあちと西り
を森り宛女のほげ
江戸の封切り及りや
今更えぬとかぶり
出舟乃安又肩三日
おまさんごくのあま
川の石よりアスル
後る常りぬ初五日
志うも男くぬの産
り竹の根は堀りぞ

ぞんぞんよ

つゝ氣で志向るかく一筆
我が居宅り建ッ大工
つゝ破ヤブらきぬまの気立テ
舟でも肉乃やうにら味
京で給うーさよぶ
母出まうせの嫁入リ前
ろくろ海うみにけ様やま床と
葛氏カキ碑いしに志こころびん後のち
様やまいいままささせせるる 碑いし様やま
うそのきカキるる 十九日

ごんごんと

まもりの多オホイイ吟ヒヤ物
子の名で呼よばばもも知しぬぬ母
百ありむむをを居いるるをを好よみ
柔座ユサの志こころ望のぞみのこころううつつ不
伏ふんんろろ荷かががああぶぶののよよめめ
子このの志こころ望のぞみみ人ひと形かたち
ままくくるるままははららるる下した子こ
石いし屋やせんぜんぎぎいい皆みなのの物もの
けけーーのの壳かももままるるああまま屋や
孫まごのの救すく世よまま 系けい細こ工こう

出次書よ

市場の聲えり見んは
不^{サイ}義^イ成^レるも
何^アい^{アラ}せん^アも酒^サくらひ
お^アま^{アラ}ス^ア洗^アす^アものあ^アくのた^アま
姉^アさ^アの^アま^アよ^ア葉^ア山^ア株^アの^アめ
存^ア株^アハ^ア不^アの^アす^アげ^アり^ア屋
け^アつ^アく^ア虫^ア賣^アの^アや^アも^アこ^アま
ま^アの^ア雲^アつ^アて^アる^アり^アま
及^ア連^アよ^アり^アぞ^アい^アま
る^ア生^ア分^アも^アま^アけ^アり^ア

とりちかし

古^カ筆^ナ賞^イの^ナ柳^ナお^ナろ
浦^ナど^ナ居^ナろ^ナま^ナぬ^ナけ^ナり^ナえ
源^ナ氏^ナ流^ナき^ナく^ナ方^ナ集
一^ナせ^ナい^ナづ^ナ州^ナ乃^ナ中^ナ
不^ナ玉^ナ流^ナり^ナの^ナよ^ナせ^ナを^ナ報
ひ^ナり^ナの^ナき^ナら^ナち^ナま^ナき^ナ巻^ナ
常^ナの^ナの^ナいた^ナを^ナ入^ナ一^ナ
う^ナい^ナま^ナり^ナい^ナせ^ナん^ナ後^ナを^ナわ^ナ
世^ナ万^ナハ^ナん^ナせ^ナり^ナち^ナ報^ナ平^ナ
ま^ナり^ナの^ナ如^ナく^ナむ^ナは^ナ

片あつて

毛ぬきはまぶら波美実
を布り仕込のる布りあ
やうらく控る上りあ
後赤とやあの中は尼
我は是布んる是布主
ごめさ色はハキア
ホレと息せぬ此の上
嫁入も介もんる女
情アトコごあレのぞくト女
良レイム着る子眠ル色あレの仔宜

大そきう

橋まぐり世後ルハシサイフ成布
あレキキのまレくや
床代もつて是ク刀
母のる様ごまレ立ッ矢先キ
半おレたレしレ裾レぐレやノ
障ハ、レりレにレるレ掛レケ
一寸レ佩イてレるレ使レ去
かり様ユーレ付ケてレ是
湯屋ハ、レ君ハのレ来ル禪フ
盃ハりレてレるレ野レケレけ

あやうらうら
びんは^{ラカ}縁の流る 朝
あをたつとふたつと持
きつじがややく舟の琴
店屋が足々形は芝居屋
羨とハ喜とよび屋
こちらのハ志どつて及外方
おまハそれをだまらせぬ
巫女町ぞめくいるもの
女房の帯をまきり千
こげめひしからごと日よる

ひりやりに

禎^{コス}立テ切ル非乃 因
是そと菊千傳あふ
名人は城をハれら
ち、徳物屋主人の子
月餅はあつと女房ど
麦めしたぬやとあ
新 店 並ぶ 同 ^{シロウバイ} 赤 髪
あーらてのうらつと伝^{ダテ}連
晴たんと釣ふらり店
ちのさへ声でアハくく

付ケてやる

彌子の夜毎母だ〜け
嫁うらときア予〜思〜下如
あ〜で是病をえら〜下雅
まら弱き〜やうなる士
ま〜ざ〜一 幟^{ボウ}けり〜初日
ま〜ま〜の〜も忙して居ル
ま〜ま〜が〜シよ成ル〜
親ハたのめど〜こ〜い連
ぢ〜んの鄭^{スシ}またでえよ
出〜人^テよまの〜吾^{カク}い偽

いそぎや

目の暮^キる^キよま〜の初長
紙屋の笹がまある〜
一ト汁〜まける風呂夢心
汁〜であ〜をほ〜く居
出^デ登り^リ居よれ〜内美
ま〜ひ人^テ斗入〜風呂
火箸をぬ〜れたま〜
没者のた〜ぬ序本の気
気で居お〜つてま〜母
そ斗^トり出^デたなん〜ど

やうや、
赤あぶれのあせうこ
ちりりほんごやうか舟
舟のゆりこちりども
ぶらいでらけこ小巾袴
ゆびをち航の糸そらうば
妻橋乃 紗のゆ白
芝舟の環ハ女中賣リ
幣のうち命あ人屋
返りのちりり仕判丸
島尻は流りてうち回全

下どよみ

河川せんまきか病より
西法より色てあ川こ雨
合おのうふぬ陣
あるどけり足のおき連
暮屋グキーづの暮のお人
賞人の紗のまら古手
たりまう休るい籠の
かまへの毛虫今そら
形らんるとらん発
あまあそあどもハ

ふがいの

終ひもぬぐいの出ルはあり

終^{ツボ}同士の川キツ 候^{サシ}

茶^{シヤウキ}店^{シヤウキ}の床^{シヤウキ}几^{シヤウキ}、さるる^{シヤウキ} 候

は家^{シヤウキ}又^{シヤウキ}成^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}う^{シヤウキ}と^{シヤウキ}忙^{シヤウキ}して^{シヤウキ}居^{シヤウキ}が

杖^{シヤウキ}よ^{シヤウキ}つ^{シヤウキ}き^{シヤウキ}そ^{シヤウキ}か^{シヤウキ}茶^{シヤウキ}糸^{シヤウキ}き^{シヤウキ}せ^{シヤウキ}る

判^{シヤウキ}ひ^{シヤウキ}り^{シヤウキ}、猪^{シヤウキ}ッ^{シヤウキ}中^{シヤウキ}肉^{シヤウキ}を

ひ^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}と^{シヤウキ}た^{シヤウキ}の^{シヤウキ}如^{シヤウキ}き^{シヤウキ}連^{シヤウキ}

そ^{シヤウキ}の^{シヤウキ}く^{シヤウキ}せ^{シヤウキ}文^{シヤウキ}ッ^{シヤウキ}の^{シヤウキ}意^{シヤウキ}イ^{シヤウキ} 又

き^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}じ^{シヤウキ}し^{シヤウキ}よ^{シヤウキ}も^{シヤウキ}き^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}く^{シヤウキ}付^{シヤウキ}ら^{シヤウキ}る

ら^{シヤウキ}母^{シヤウキ}が^{シヤウキ}母^{シヤウキ}の^{シヤウキ}中^{シヤウキ}ん^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}約^{シヤウキ}り

ふがいの

固^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}さ^{シヤウキ}る^{シヤウキ}す^{シヤウキ}け^{シヤウキ}た^{シヤウキ}工

終^{シヤウキ}ひ^{シヤウキ}宿^{シヤウキ}備^{シヤウキ}り^{シヤウキ}で^{シヤウキ}午^{シヤウキ}シ^{シヤウキ}免^{シヤウキ}へ

人^{シヤウキ}形^{シヤウキ}と^{シヤウキ}く^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}と^{シヤウキ}あ^{シヤウキ}り^{シヤウキ}か^{シヤウキ}ど

牛^{シヤウキ}の^{シヤウキ}毛^{シヤウキ}は^{シヤウキ}入^{シヤウキ}ら^{シヤウキ}し^{シヤウキ}は^{シヤウキ}が^{シヤウキ}い

と^{シヤウキ}け^{シヤウキ}か^{シヤウキ}ら^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}で^{シヤウキ}雪^{シヤウキ}え^{シヤウキ}あ

堤^{シヤウキ}の^{シヤウキ}た^{シヤウキ}ら^{シヤウキ}ぬ^{シヤウキ}え^{シヤウキ}り^{シヤウキ}好^{シヤウキ}ま

肉^{シヤウキ}の^{シヤウキ}氣^{シヤウキ}の^{シヤウキ}せ^{シヤウキ}く^{シヤウキ}肉^{シヤウキ}ぬ^{シヤウキ}え^{シヤウキ}ん

ゆ^{シヤウキ}気^{シヤウキ}の^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}ッ^{シヤウキ}き^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}あ^{シヤウキ}や^{シヤウキ}物

を^{シヤウキ}ろ^{シヤウキ}と^{シヤウキ}ハ^{シヤウキ}ら^{シヤウキ}け^{シヤウキ}て^{シヤウキ}ま^{シヤウキ}る^{シヤウキ}は^{シヤウキ}し

古^{シヤウキ}家^{シヤウキ}川^{シヤウキ}キ^{シヤウキ}合^{シヤウキ}尻^{シヤウキ}浦^{シヤウキ}は^{シヤウキ}さ

あつとく

生きたる毒の有る病
さきハ狸千成非人
狐のさつ竹の先キ
ちやちやハ時半の徳
たの切リ油ん屋ら後棚
でうちが持さほら
いんきよとさる少でうん
せんまが野さあぢ
熊のまぢさやしまつり
あちりハみどの斤山家

史ハ

口舌のどらむ齒形
面うけりくさを徳い
鼻乃氣知る凡呂の
ちざう人形さ
名中さる紀奈良活
茶が利クは徳出さ
子よあいの無キ上
彩窓乃灯のくらふ
べにうりハ徳菓子
近所とるの合ぬ
警女

あをのいて

谷うらまゝる^カ及志の^カ鹿
^カ鹿のふちおつ^カ泊りおまへ
キヤツをめ白^カ師と^カふ^カ孫^カ室
又う^カの^カむ^カつ^カ相^カま^カま^カま^カ
く^カの^カま^カを^カ待^カつ^カど^カん^カか^カ魚
舞^カ臺^カの^カそ^カび^カ又^カ指^カル^カ足^カ物
床^カて^カめ^カ房^カよ^カつ^カや^カが^カら^カせ
だ^カう^カこ^カ仕^カて^カ指^カル^カさ^カま^カら^カげ
雪^カ車^カの^カ考^カ中^カマ^カッ^カ一^カ斬^カ家
心^カ集^カ一^カて^カ指^カる^カひ^カさ^カが^カつ^カる

をい

セツ^カと^カりの^カあ^カち^カ子
飯^カの^カあ^カく^カる^カふ^カお^カま^カと^カ髪
介^カ科^カあ^カ門^カそ^カり^カ丸^カ家^カ
井^カ出^カ乃^カ武^カ川^カあ^カら^カま^カら^カき
堀^カ入^カつ^カと^カ咲^カよ^カと^カあ^カつ^カさ^カ子
あ^カら^カま^カら^カ泊^カり^カそ^カあ^カら^カか^カや
う^カん^カだ^カん^カ出^カス^カと^カ賣^カル^カお^カ取
庭^カ星^カへ^カ来^カル^カや^カら^カま^カら^カり
目^カ尺^カへ^カの^カ下^カ女^カよ^カ遠^カふ^カ丁^カ推
は^カ豆^カを^カま^カふ^カを^カめ^カお^カら^カり

たをこハ欲^ヨの大序之
口伝キ人の身には伝はし
時斗のどくたうぬうを
暫女を病一ハシク下雅
京乃常とくハ新家
大おもしろも系屋入り
陽指一版をたきよ来ル
子依のこりくけと雪
麻ル一うらへのをち宿
吸拍養く病る長^ウ産

海ちよて

9 一がちほいて居るよまを
子飯桶一こりくけ
中一産く本の芽引た方
鐘笑度よいつたゆい
知く日く門てアんる一層
系屋一ノ身折よりびりき
ワシヤウツイハ拍ワぬ
一トまもかやも拍リのにし
云りあもあもりまし
ア男の身外^ケてあまや

掘ては
日うけへ通る切きは
下ヶ髪の役者うぐり籠
むぐのねらへるうざん
店くあーと百り沙
長脚らーいんそち
切り子で意強ん乳母
だて半分乃志ぬすのふさ
細赤の手挿まーいの
及乃賣のかがはりぬさ
まじと空河けぬ火吹竹

在イ事

手又判りて飯喰ふ
塩ふんぞゆーまの強ね
鶴追ふてりりあぢエ
出ね乃隣りワイ近
内美も下女毛知つてわろ
まろを舟もまろ用格
おもてハ生てうらハ炭
母乃氣のせく嫁入表
若おさげて店り風呂
孫のうつては徳ひんま

そろり〜

家母でほげめる文芝瓶
あまぬゑで出る養理道人
茶臼千合せう川きぬ
二日千白る老あうぬ
川ぞ踊るぬ婦一娘
赤まんめんのもるハ
蒼子心の骨しほめ
本服こんせよあましく杖
いの字をキイして産院
辰あまう町小ある新代

あまの山くんと

昔うもやも性々回士
りあめり上げてきん戸あ
た〜や町でまう〜女島
妹〜ゆぐる〜乃〜丸
長門〜ぞんと〜ト〜花
母のよ利をきせてきル
あま〜き〜の袖
あま〜の〜小川を
淡合の座の〜
ア〜もあ〜

入リこもどや

昔はも時代も人歌箱
あまのうらももろえんを
誰か下伝ふなり 喜屋所
とるりあうよ文に飛呂
ておや志下ぬざさぬの子
如やハ井の今もあかり
志下る志下る思たをを
屋凡のた下ぬ大もんひ
しとく 誰も物の事なを
竹の金の蔵のたるおろ

それくし

橋又のやまへ一冊が
けをや一上子る絵師の書
せさだのぞも笑う一本店
古備造つハ大あつた
ごぞんせごぞれよあつた
古跡^{コセキ}まうく一立下り子
あま屋娘が常志あうり
やうんや町のふかひる孫
鼻ハ目^メのの^ノか^カぐ^グこ^コ立
心の志^シ下^ゲる^ル 藤^{フジ} 地^チ ぢ^ヂ ぢ^ヂ

三十一
火を付けて、
薪をたく皮は糸出
夜はほたる賣り園うり
うらをよそへて借スきんが
糸糸糸うら糸糸糸
ひら尻をみる報の師
福ごまを巻てつね家
下子も縁ま冬だんぎ
仕ル布どあしん 歎キ後
るぬかぐよるきりし人
吹キつけていぬ糸糸糸

三十二
たりにあして

あつらふでゆきる橋の杭
焚火のわらぬ大工の家
火神はどくまきル咄
うんぎーあつらふ人
人で垣まら 咄
尻泣き 糸糸のうさぬぞ
妹のちんをみるね佐
うー野、鳥糸糸の行
かんどりのね付ク子も
室川で西月らーい

ちびくくと
さむい日ハ桑のこい桑店
の子をんへられる後帯
業^{サネ}程の干場は些々草
みくばの足^サを舞ふや
かきつけ持て京のあ
町うら子イ草のだて
見るも此もまれば
あとものがり初とい
酒が流るるさし
笑居り雪をさう

や川

春も子のまなうら
泣れぬで真^{マコ}く
地あはゆきさう
美えでハヤイア
同りれてい付^ツある
又とといお 人り
母乃^{ハハ}まらんハお
あるこのや^ハる
のぐ紙でして
合島やな

振くし
 言人ぞ撰り侍上房
 ありはゆき見ゆし志れ
 縁ふしめの孫ふしめ
 一日の名ふし日たき
 又中ふしぬるを鼓前
 翻てぬゆり座つて
 雨乞の羽立降る在所
 下戸と峯ふしはふし
 人ぐしを同し料理人
 新宅で侍つてあり戒

俳書目録

たぎ大急	せき乃下
折句小登	和国車
一乃編	思子拍
二面鏡	天神屯
三三翁	三尺鞭
あゆみかみ	
折句式	
あふむ石	

宝曆七年丁丑五月吉日
 浪花書林
 田原平齋

